

壊れた太陽電池（PV）モジュールに触れないで。太陽光発電協会（JPEA）やPVメーカーが、熊本地震で被害にあったPVユーザーに、震災で破壊されたPVの取り扱

いに関する注意勧告を行っている。PVが家屋などのガレキとともに堆積されている場合でも、「太陽の光が当たっている時は発電している可能性がある」（JPEA）。素手で触れると感電する恐れがあるからだ。住宅用の一般ユ

箱、パワーコンディショナーなどで構成する。これらの機器が震災で破損した場合、接続する電線が切れていると感電する可能性がある。救助や復旧作業などで壊れたPVモジュールなどに触

壊れたPVに触れないで！ 感電の恐れ、JPEAなど注意勧告

れる際は、乾いた軍手やゴム手袋などを着用するよう注意を促している。また、モジュールがケーブルでつながっている場合には、「ケーブルのコネクターを抜くか切断するよう」（JPEA）としている。JPEAでは「震災で破壊された太陽電池、パネルの取り扱い上の注意」と題し、ホームページ上で注意事項を掲

熊本・大分地震

し、ユーザーに対しては、販売施工業者に連絡し対策を取るよう呼びかけている。

PVシステムは、モジュールのほか集電

の内容を自社サイトに掲載している。